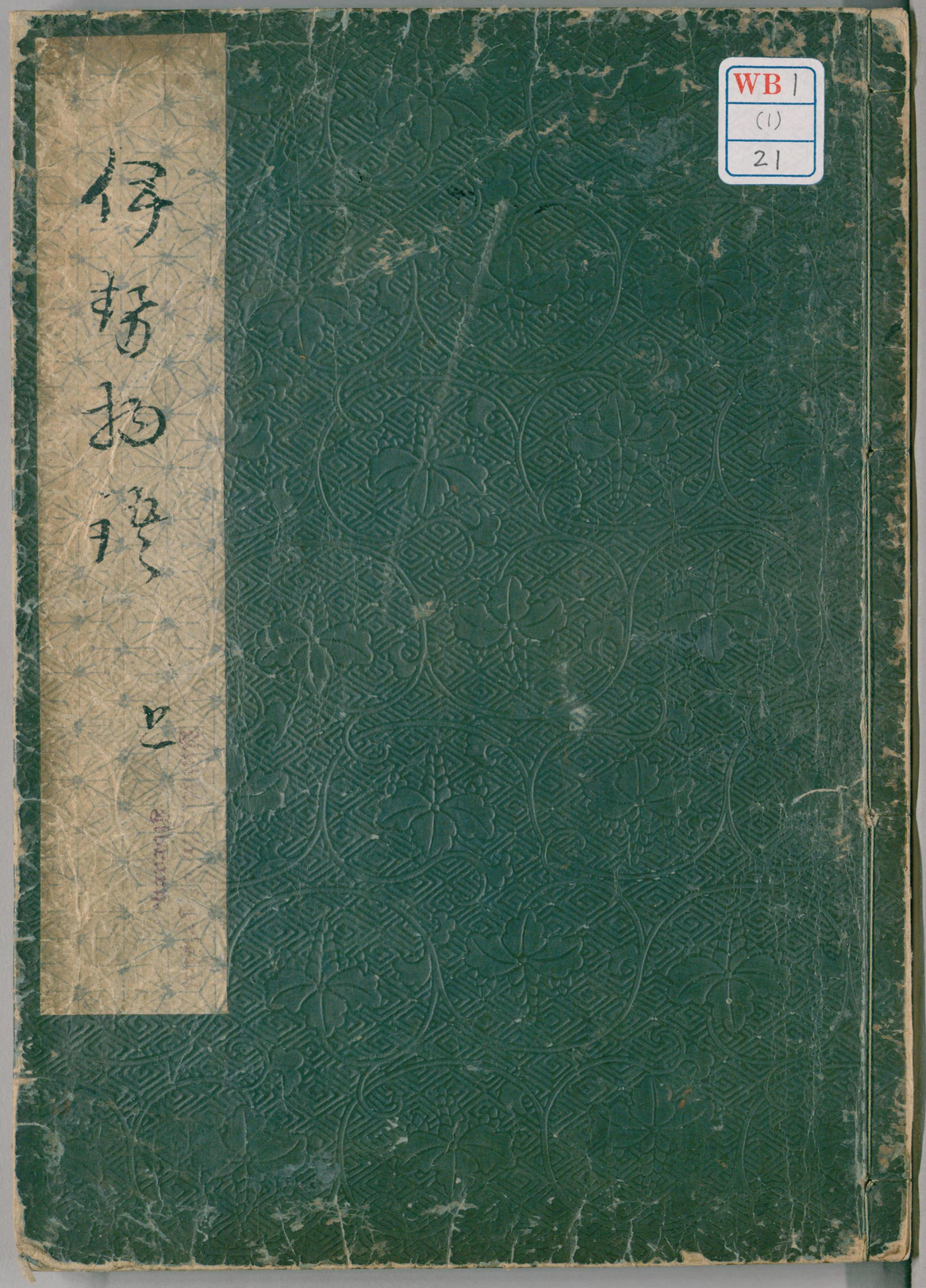
ガラス使用

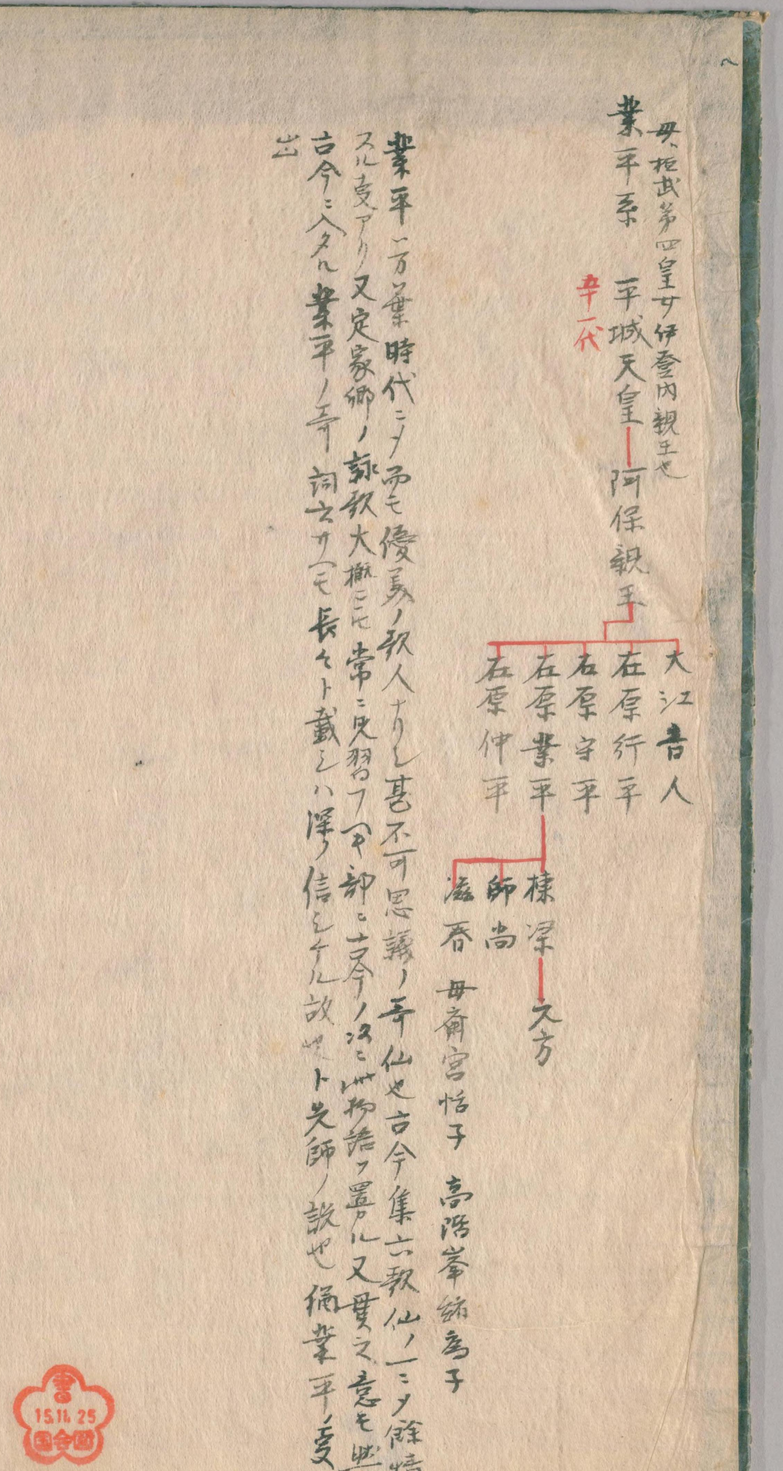
国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21



WB 1
(1)
21

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用



業平二万葉時代ノ帝モ優美ノ歌人トシテ甚不可思議ノ平仙也古今集六歌仙ノ一ニシテ雄情ノ人又定家卿ノ新歌大概ニモ常ニ史羽ノ中納言古今ノ次ニ伊勢物語ノ業平ノ事詞ヲカヽセ長々ト載シハ深ノ信ヲ入ル故ト云師ノ説也偏業平ノ受領ニ出

15.14.25 国会図

之奈良の帝と云共先代の人意一にして差のこと無ければ同じ様に書つゞけ侍る也先ず小野の宮内大臣の事より書始むる便の支度也

清和天皇小野宮実頼公仁和の帝の御子時康親王と申せし歌人にて御座候

業平は桓武天皇の御孫阿保親王の五男にて御座候

三の帝と同雖て共夫婦の道に於ては浅からず互に思ひ合て有ければ忠仁公の御娘にて御座候

一つ書よりして大和の国の人物の心やさしきと云事を書あらはして

特に業平と云共やさしきを以て第一の物と心得たるにより内裏外祖父忠仁公の御娘にて御座候

人々の大倫や性情をよく心得て置べき事也

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

業平自記　外題ナシ一期ヲヨシナシト詞書有誹退比興心中秘密ノアリヨリ
具平親王本　初ニ業平ノ事ヲ書次ニ詞ヲトリ書ノ只又本ヨリ
但普通ノ本ヨリ二章数ヲ多ク物語多シ又異右ノ本ハ後ノ人ノ代ノ筆鏡ニ
書ルヽトモ云人也中務親王後中書王ト云又ハ晴カラズ前中書王ハ延喜
御子兼明親王也

高階二位尼本　焼失ノ後定エカリケルヲ書集メシト云部卿ノ惟純女尚腹ノ女也　業平ハ平城天皇ノ孫
賀茂内侍之本　此本ニ尚宮下向ノ段ナシ内侍ハ神祇ノ女御更衣ノ新ニシ人ニテ尚宮ノオカセ人ニ業平ヲ
奏スル心ヲ以テ忘テカサルト云但焼残リ名ヲ二物ノ書ルトヤ
安倍師安本　此尚ノ段ノ始ニアリ　是ハ伊勢物語ノ題号ニカナヘルカタメナリ伊行ノ説ニ同
南宮ノ段ノ始ニカク
朱雀院御時此物語ノ御献ありテ長能返詔ニ記シヲヒテ注艶艶ノワクヲテスリコメニオカメ玉ヘリ仍塗籠ノ本ト云
伊勢守孝本　是世間流布ノ本ト習ヤ中務伊勢ノ娘也
日本紀曰　陰神矢吾曰妻哉
此物語書ハ時代、光孝天皇仁和二三年ノ比ト知ヘシ　是ハ傳秘説也
是又夫婦交會ノ道

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

字ヨリ外ノ物ノヨフニ記ケレ共心ヲ述ルヲ主トシテ字ノ
所ヲ拘ハラヌヨシヲ初ノ時ニ意ノ字ヲ以ヘシ常ノ如シ
ノナリトソ云

當流抄

愚見抄　人皇百三代後花園院長禄四年後咸恩寺兼良公ノ作也一名神問ト云
宗祇抄　百五代後柏原院文龜二年七月晦日和根湯ニテ辛スハ十二歳駿河
伊豆兩国ノ境拂鬮ト云所ニ草庵ヲ結テ舎下ニ葬ル　発灯ト云
宗長抄　宗祇高弟也
肖聞抄　百五代後柏原院御宇文龜之年連歌ノ新式ノ作ル　江丹花美也肖
柏ト号ス故ニ肖聞ト云ル肖柏書ト云ヲ受也
惟清抄　外記環翠軒宗七作遠遠院殿ヨリ相傳
紹巴抄　三條右府稱名院殿ヨリ付受
憲雲院殿抄　近衛殿三ノ號院殿ノ父政
九禅抄　九条玖山公作也幸夫院殿ト云
右兩抄稱名院殿ノ聞書毎度注ノ分カラレテカクノ多シ
幽疑鈔　細川三部大夫藤孝法名玄旨ノ述作也

一抑朱子曰名語辞し
一根元本根源之
源となる
一之を史記及歌傳
に書載之一日紀
名之義 凡祝比與雅頌
凡そ之を祝いう
祝いう之與比
雅之與頌
一仁和の帝の御ゆ
ふ人にはあらぬ
なり歌もよく
しろしめす
帝の御ゆふ
てうのおほやけ

世間流布之本奥書

抑伊勢物語根源六人之説不同或曰在原中將自記之因茲有

諒闇比與之詞等

又曰伊勢筆作なし或いは

推而難注之以之可

疑万葉言風甲多載

語共自書在但疑

以此兩説筆之更難決之心中秘蓋

拠集哥仁和聖
儀定家卿自筆
違但記庶幾共歌
物語名字非
愚本定家
多本載之不可止

一仁和 帝八代夫天皇の
御代つゝ
一此章并河師の
ゐなかに日書
放或本不
可有之

一日十四日行幸之間和記陪従之
家集共拠又歟倫以同之是又先先
物語名字非伊勢
筆者何称伊勢
多本載之不可有之
三条西殿定家
多本載之不可有之
筆不遠一字本同之

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』　請求記号 WB1-21
ガラス使用

或説云伊勢ノ介有此名
昔ノ改名ノ字ニ
依テ歟
而京吾日之詞
説不審
或又雖信始則
武蔵野之烟元
不知
其説
次又注西對夜月之思富士山之雪
事
改乃此章
伊勢物語ヲ
通
理也
仲
不狼藉
也
不用之
先
許書之
為人
被
倍
失
仍為備詮
重所
校合
也

一説云伊勢ノ介有此名昔ノ改名ノ字ニ依テ歟而京吾日之詞説不審或又雖信始則武蔵野之烟元不知其説次又注西對夜月之思富士山之雪事改乃此章伊勢物語ヲ通理也仲不狼藉也不用之先許書之為人被倍失仍為備詮重所校合也

[illegible]
[illegible]
[illegible]

詔書修己焼文義遺之
愈久但意意味深長
又曰凡有文章須
先暇其文義然後可
以求其意味有不暁
文義而見意者也

万葉集 巻二

歌詞 花言葉 和名

戸部尚書判

易程氏傳序曰予所
傳者辞也由辞以得
其意有不人焉
一凡此部之書ハ
一詩三百一篇ノ國風ヨリ
易序卦傳曰有天地然後有万物然後有男女有男女然後有夫婦然後有父
子有父子然後有君臣然後有上下有上下然後禮義有所措
立正位ノ事
一凡此部之書ハ
一詩三百一篇ノ國風ヨリ
易序卦傳曰有天地然後有万物然後有男女有男女然後有夫婦然後有父
子有父子然後有君臣然後有上下有上下然後禮義有所措
立正位ノ事

伊勢系

石大臣
内麻呂
日野家之祖
眞夏
従五位下
濱雄
三年九大午
家宗
大和伊勢守
繼蔭
女子
伊勢ヘ

従五位下
諱雄
号華山進士
隠雄
吉今作者

五十九代
宇多帝ノ后明宣公ノ女寛平
九年七月廿六日中宮昌泰
二年七月廿三日皇太后
延喜七年六月八日崩

父継蔭任国能多歴年リ但伊勢守タリシ時ノ子ナル故ニ伊勢ト云七条ノ后温子ニ事ヘ寛平法皇ノ思ヒ人ニテ幸明親王ヲ生ム仍伊勢御ト云女御ニ准ズルノ義後撰集ニハ伊勢御息所トアリ
皇子誕生ノ上ハ勿論後輩ニ賠答ノ辛アリ同時代ノ後撰集ニハ伊勢御息所トアリ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』　請求記号 WB1-21
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

もゝくさもわけしころれなる
そもゝはがくさのそがひまそかに
おもひくん時やよのほいよち面を
おもふりやるる
一首二行花て各多數書
長句頁右
一首三行ーにて
春のもりとそなりめる

一杜若　長門　花　崔嵬　少気　可き　女　来　而　面　花

二

世の中にたえて桜のなかりせば
のもとにすむ心のどけき

一そのゝち七箇年の事なり
一文徳天皇天安二年八月三十二歳
前御同十月清和立儲即位

一世礼曰天子之妃曰后
注后之言後也就理内妻一在夫之後也
又余雅一釋詁曰妃
懐也懐遠於夫也

思ひあまりいでゝいなばむなしき
ひとのまことをいかゞ
日本紀正妃ノ訓ヲ仮字ニ
二条后のみやづかへしける人を
いとやむごとなくてまもりけれど
ダドウト
たゞいかゞせむ

一多人　凡俗　日本紀直也人ヲ訓

むめ（ヒンガシ）の。五葉有。花はさくら。おそく咲。一重。八重。有。

一重は。ふつう。八重は。ふたへ。

一重は。ふつう。八重は。ふたへ。

かく里。多き人。（イニコニヲ）（ヲノ切不用）と。毎年。花咲。

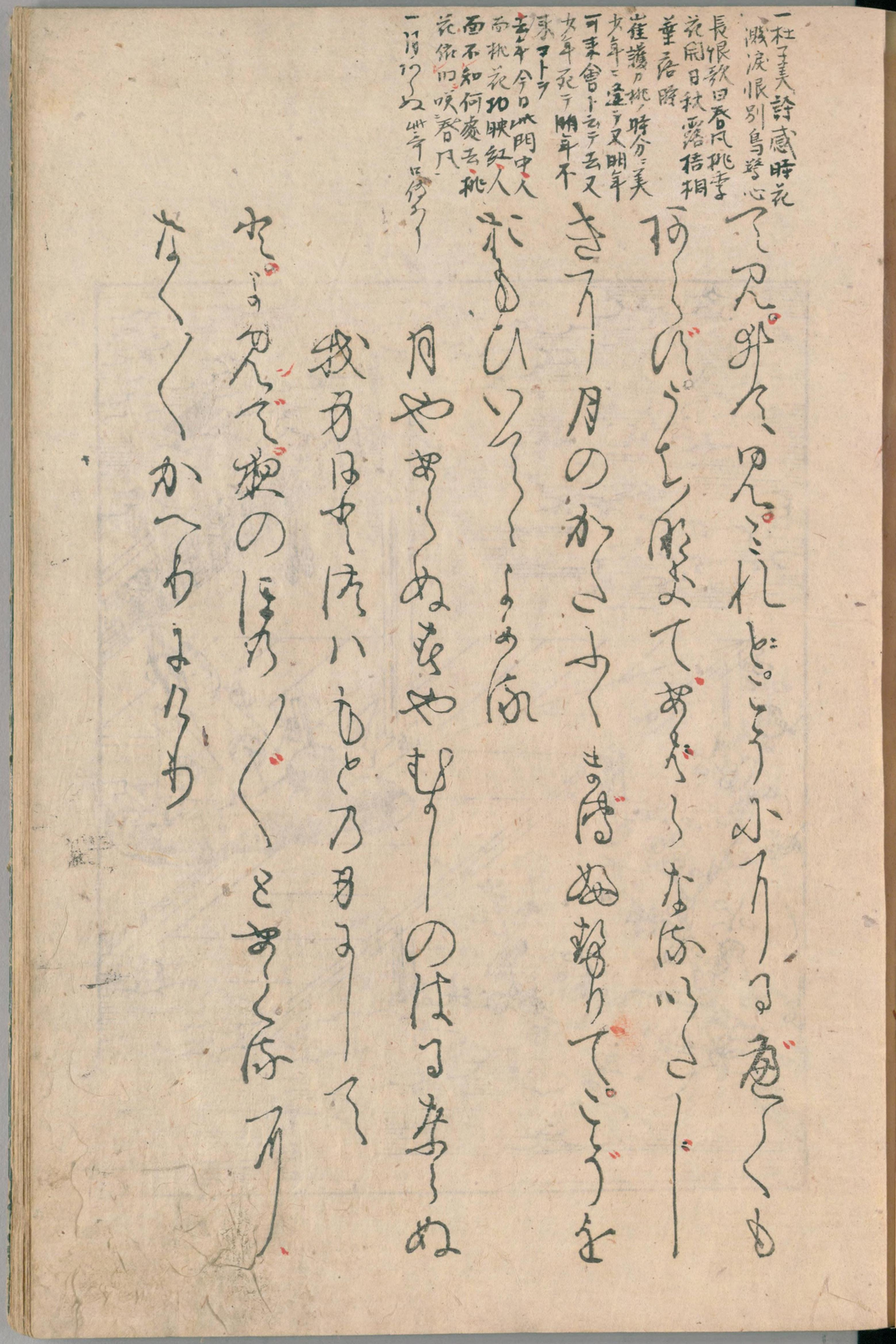
十日ばかり。落ずして。ほころびたるつぼみ。なんどあるを。

おれ。折。はきけど人。咎めさかしだてする。

ものあるごとく。枝ばかなを。

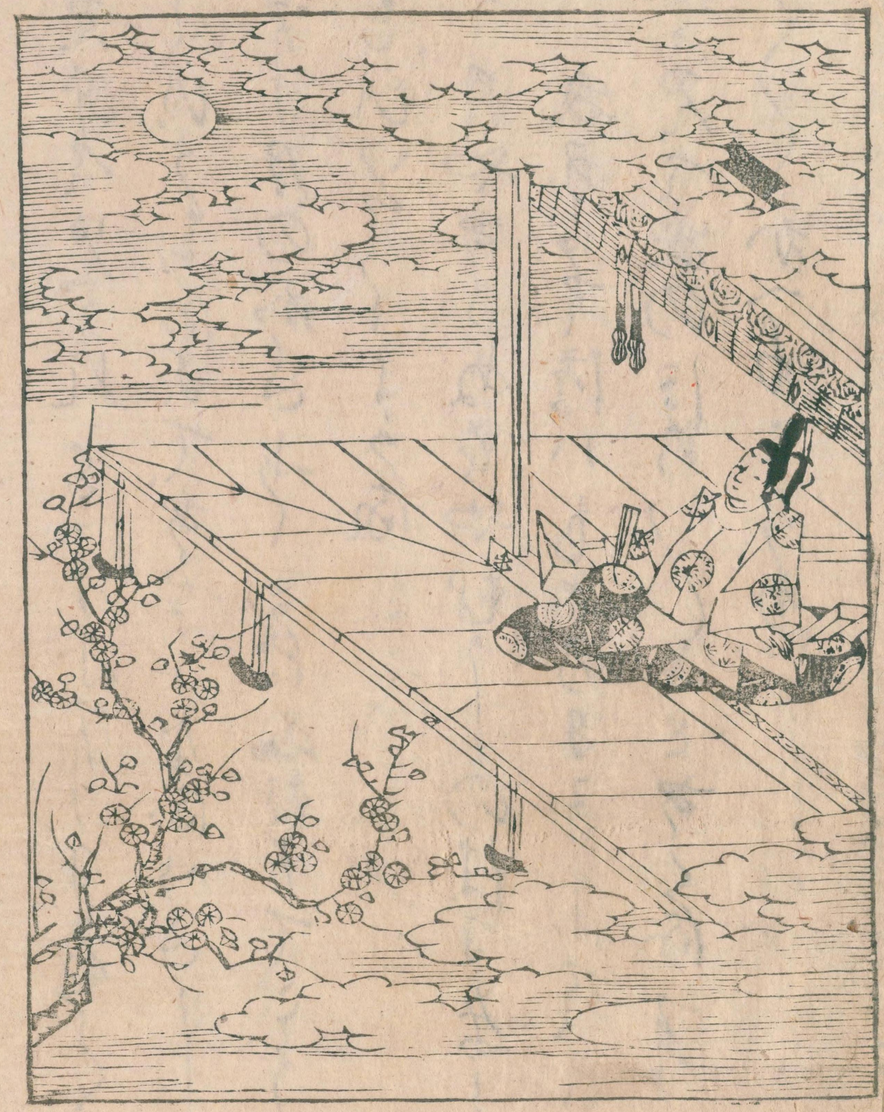
はらく。なんどあるつぼみの。

乃花。（雨月）



国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

よもぎとともにおひもれなんと
ぞよめるもことわりなるべし
ふかくいりたるこころやうやう
あきはてまうてこぬ人をのみ
まちわびてなげきこもりゐ
給へるほどなむ
いとうしろめたくおぼえ
給ふ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

斎宮のかりうち仕男ありけり
あひて深き人にはあらざりけ
べきにもあらずいちはやき
らもあはむとにもあらず
ら人もうちも
ら志はありけ
ひとも
乃
や
ば
と
の
を
て
ま
ま
ま

二すぢの道
ゆくてにうすき霧ぬぐふ秋の風
こゝろ尽しの秋風ぞ吹
むさしのゝ草葉の露を分わけて
いでし月日は我を待らん
武蔵野は今日こそ焼なれ
いとゞしく
心ぼそくもすだく虫かな
修
かぎりとて別れし道の
おぼつかな
いかにせん行末遠き
わかれ路に
いまかへりくるものとしもなく
東路の
道の果まで来てしかど
あふさかとうち見るよしもなし
人しれぬわが通ひ路の
関守は
よひよひごとにうちも寝ななん
二すぢの道
ゆくてにうすき霧ぬぐふ秋の風
こゝろ尽しの秋風ぞ吹
むさしのゝ草葉の露を分わけて
いでし月日は我を待らん
武蔵野は今日こそ焼なれ
いとゞしく
心ぼそくもすだく虫かな
修
かぎりとて別れし道の
おぼつかな
いかにせん行末遠き
わかれ路に
いまかへりくるものとしもなく
東路の
道の果まで来てしかど
あふさかとうち見るよしもなし
人しれぬわが通ひ路の
関守は
よひよひごとにうちも寝ななん
二すぢの道
ゆくてにうすき霧ぬぐふ秋の風
こゝろ尽しの秋風ぞ吹
むさしのゝ草葉の露を分わけて
いでし月日は我を待らん
武蔵野は今日こそ焼なれ
いとゞしく
心ぼそくもすだく虫かな
修
かぎりとて別れし道の
おぼつかな
いかにせん行末遠き
わかれ路に
いまかへりくるものとしもなく
東路の
道の果まで来てしかど
あふさかとうち見るよしもなし
人しれぬわが通ひ路の
関守は
よひよひごとにうちも寝ななん

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

みの山をみてよめる

雲いやへ　へだつれども　ふじの山
　　よそにもきみを　あはれとぞおもふ

かのこまだら雨ふれり

かのこまだら雨ふれば　ぬれじとや
　　たちどまるらむ　ぬれぬ山かは

そしてかきものの序にかへて

　　心にて

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

十

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

みうしのくたれむかわもひたふた
まのかさうらとなくふ
せこぐねかん
我かさにるとを
たのむのまりを
とをまて人屋くたこ
なのん。やまさもゆ
むー花ちこの門
ぐちもにこれよ

不破日本紀仁賢天皇紀女
詞於母弁兄於吾弁兄
弱草吾夫何怜矣ニ註ス
古者汉弱草喩夫婦故汉
弱草ト云ヘリ

はせよもこもまろ木ま
とゞめ乃原城きてゝ
のそうりけり

かくいそぢあまりて女

一歌を互にかたらひしてもの思ものがきつゐふれ
十七夜月を歌のつゞきの発句
九のちぎりおのがさまざまなりてせ

一ふるさと京方京師ちかき

どいへ所よ。おとこ京へ
白虎通曰京師衆也
京大也師衆也
天子所居也

一をとこ駿河の国にしる人有ければ

そがりのあまを乃松法人あり
管絃に熟達の人多くこの国にありしとや

言こしをたにぞとゝ悔しを

ゆくすゑまつの山こえんとするこゝろぼそさ
いとゞ思ひをそへ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

あるはなこだのあ
ゆ（十七）ゝ袖をとぼまざ
乃ほかわ小兄有きた
あざなわと云にこそ
と——まま
逐
りふこず八あもそ雪とぶおお陸
きえびをあわともも仏と兄ますや
（十八）女の——な風心有女あ
事あ。女うた心むりとな
凡んとそ。ぱこの暮乃
里て。おとこ乃もと〳〵
一九ウ十一行名
ゝまな井にほあ
えたもとを有
おとこ——びよこよ
江有にほふがう
おあれゝ人乃そ

むかし男ありけり。女のもとへ
いきけるを、男もなかりけり。
まなくなりにければ、おとこ
めりけるを見ゆきて、
かとてもおもひさらぬ
物ゆゑものもいはんと
さしてかへりてみまうで
ゝ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

かぐやま山のかせぎやこなり

とよめかけるをみおとこあ(ひ)人となん

(ニ)
女をとこよばひにあひてあひがたくてとしごろへてなんいひわたりけるを

(ホ)
男やまとにあるをんなをぬすみもていでて

(ヘ)
(ト)
(チ)
(リ)
(ヌ)
(ル)
(ヲ)
(ワ)
(カ)
(ヨ)
(タ)
(レ)
(ソ)
(ツ)
(ネ)
(ナ)
(ラ)
(ム)
(ウ)
(ヰ)
(ノ)
(オ)
(ク)
(ヤ)
(マ)
(ケ)
(フ)
(コ)
(エ)
(テ)
(ア)
(サ)
(キ)
(ユ)
(メ)
(ミ)
(シ)
(ヱ)
(ヒ)
(モ)
(セ)
(ス)

(二字見セケチ)

なおりぬればかへてあくるつとめにやよひのつごもりにかえでのもみぢのいとおもしろきをおりてあめにそへてやるとてなんいひやりける

あめてなりもとにこそかへるなれ

君がとめたるえだをおれなが

(一字ヨメズ)
(ヒ)
(ヤ)
(ヲ)
(ヨ)
(ヒ)
(ヒ)
(ヒ

二十一

有男女いかゝ
心なかりけることと
れんじをかゝ
をやう〳〵と思てそよ
う〳〵なせよとてもよ
いそ〳〵いなばの
をの
とこゑをきていそ〳〵
よをねてあけ

二十一
有男女いかゝ
心なかりけることと
れんじをかゝ
をやう〳〵と思てそよ
う〳〵なせよとてもよ
いそ〳〵いなばの
をの
とこゑをきていそ〳〵
よをねてあけ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

おもしぬをばうちおきてうかれんと
いふいうようなよてゐぼうたるもとも迷
かんとおぼゞまいづくにとみかう見くらべ
どいづこをりわとも後ほえざわる秋ぶ
かてありて
なふひなる世なりとも身投
まぶりちおやをはし
ひてなめをまもひをすんたまうて

一玉ふて西京と不相内
くに天皇の御の位所のれ
人ふさやひもひまつて
うりよりてうれんひと

なるげ有乃
方おもをはくおあ
もやおかれむひをこ
今ハとそわるく
人屋心有海
ゑ

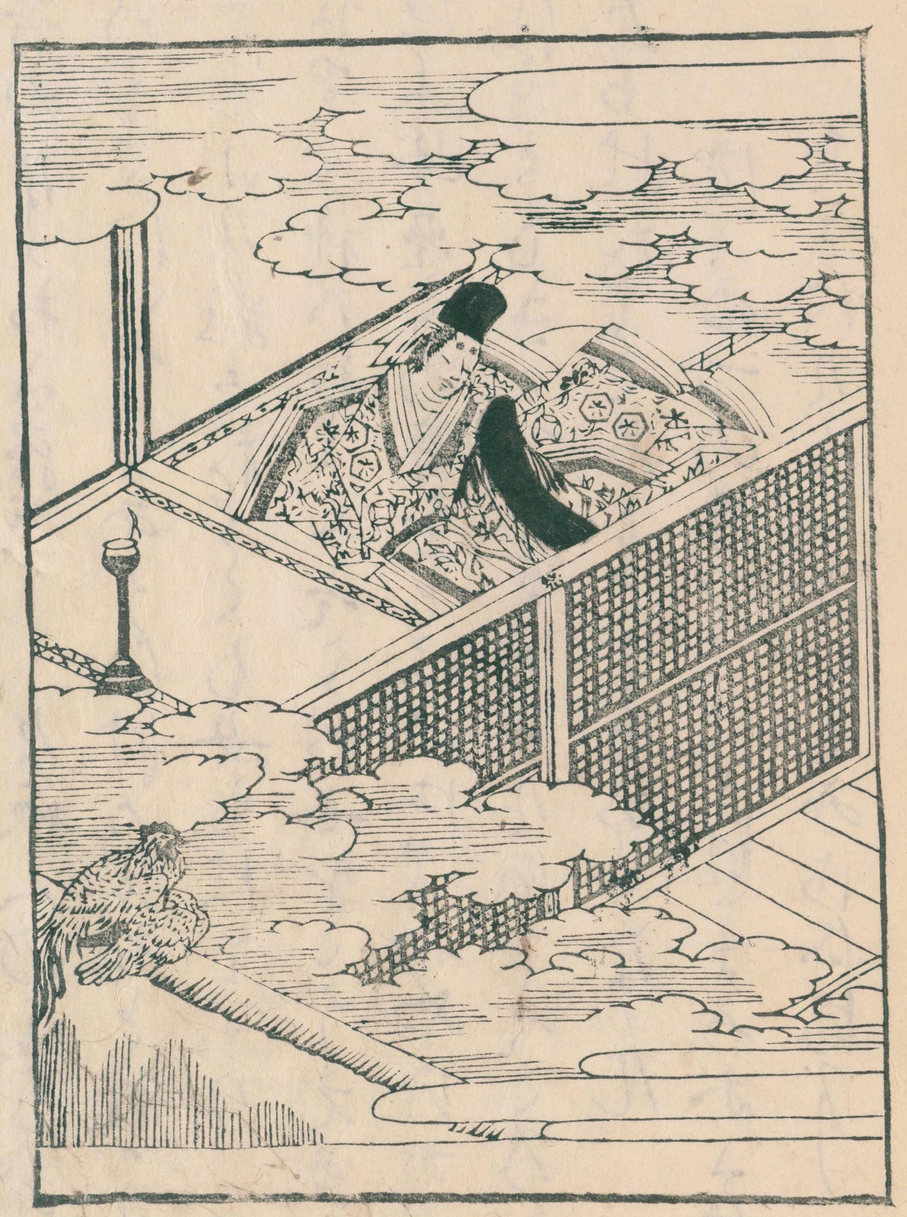
一げ」物のなし
うろ〜ゐろてし

あれぐそうみとよさく馬なハ
おもひなわとをあ
みくあろ〜まわ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

われうち寝んと思ふほどに
ゐわー―らわげにはあらず
ゐ――
ふうでありたちぬる雲もなく
月のきわめて明きもなく
といひひくれど我院がゐ出こりありあり
くまでうとくなわにくりかへ
二十二
着もかはさでたえありけるまでざわりけせ女のもとより

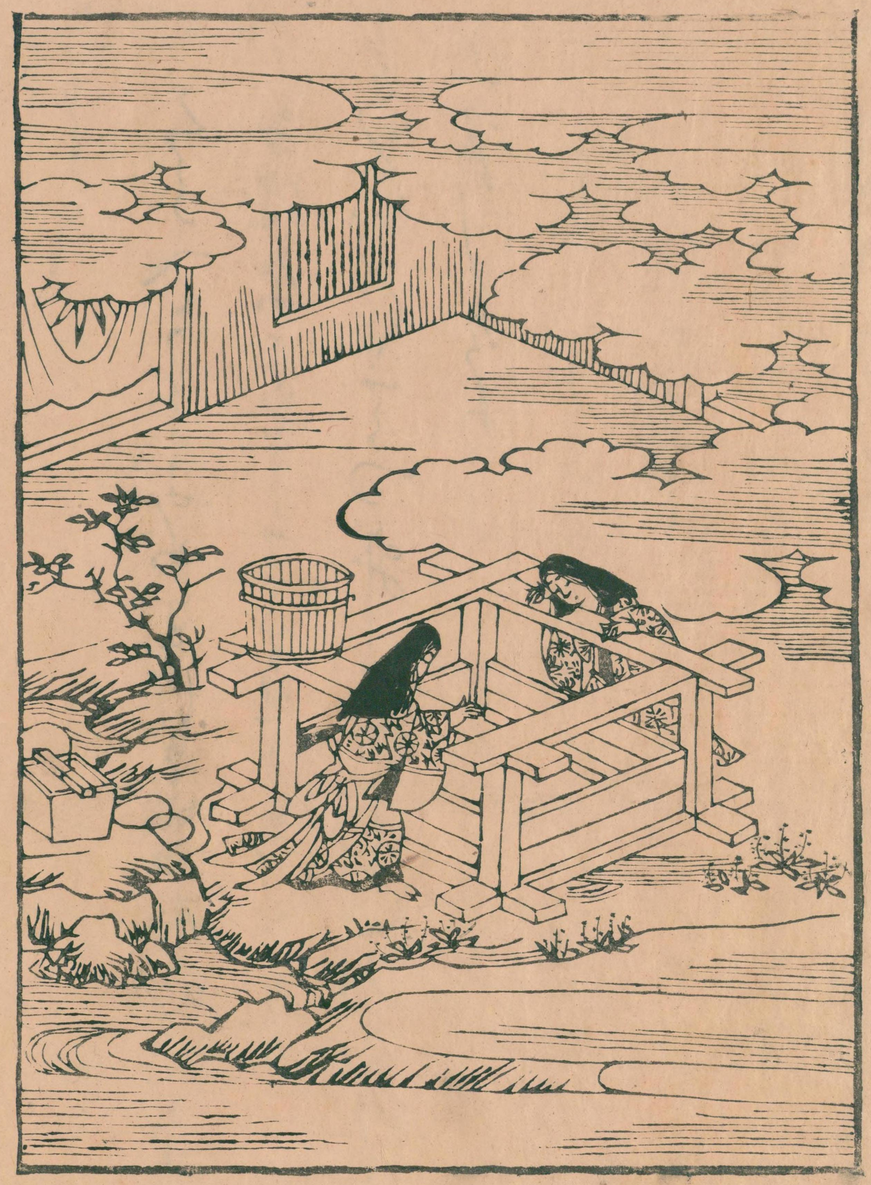
二行後ろで、古に書く
ゐこそ取あつかはん
人の女時を見るらん
世にてありけるまゝにいと
ゐ見てはいとゞ
ゐのなのもてたしく
ゐひとつをのはまれ
といひひてたとこ
ゐひとつをやうよ
ゐひとつをやうよ
ゐひとつをやうよ



なよみよのちぎりを一夜にかさねつゝ
とぎれうらわかなよなよ（十九丁裏）
いろ〳〵へくらわもみぢをかざしてな
かよひまゐ

昔なまさかしき人の子ども
のもとにそへあらびけるなが
なわすれたるをとこのもとよ
りとてきぬのえりにかきつけ
てよみおこせたりけるをみ
ればおもかげもとどまらぬ
ほどにきえうせたりけれ
ばなにとかくもわかくなん
ありけるつゐでにこまろが
もとにかきつけてやりける
またれこぬもみぢはなりけ

むかしをとこ
きえはてむ
ものとをも
はでにくか
らぬほどに
あくべき
ことにや
ありけむ



国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

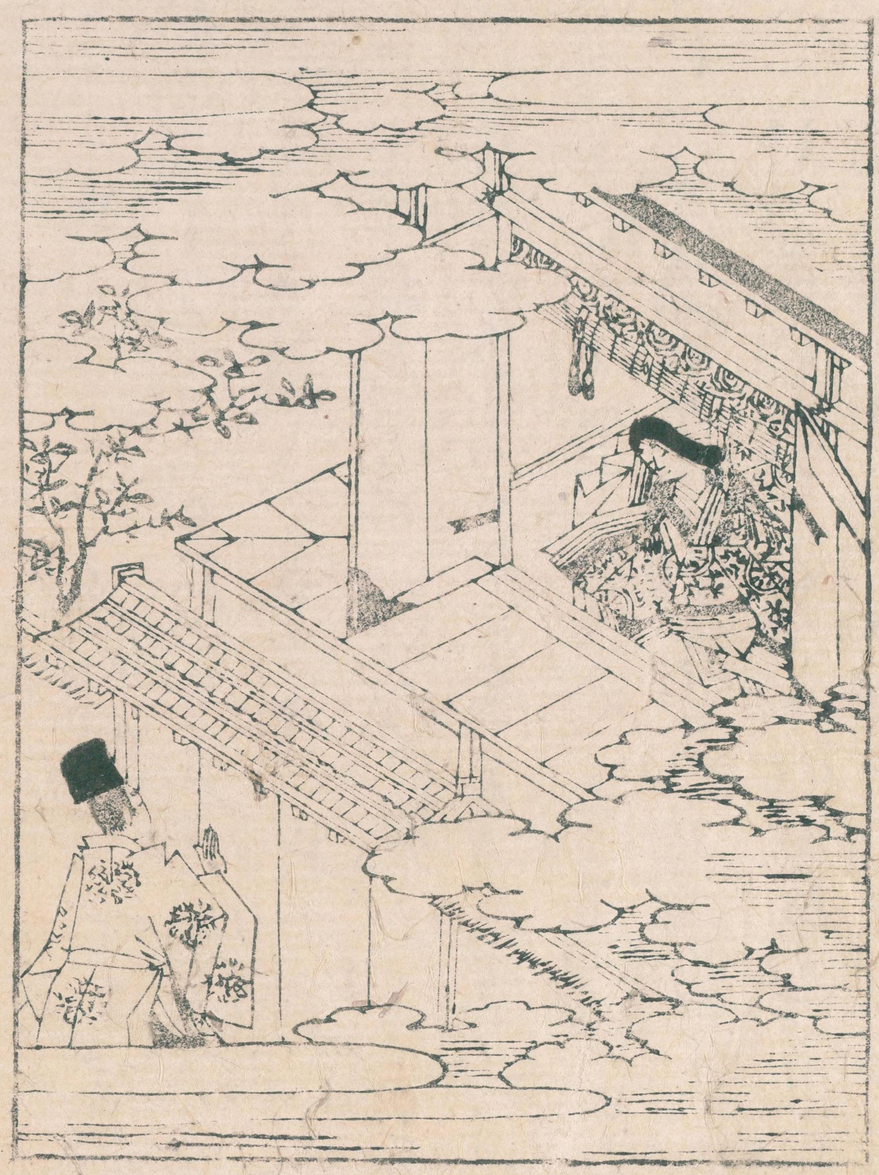
ガラス使用

まきてくめのたうやまてこまだはず
めこうこころろうそもつそわ兎のうまを
うちと栄てくほぎうういみがひとわてけ
このうはも物有もわらうを見そんう
がわていかびあおよ多わきわれもだらみ
女やたとのかと我見やんやわて
とひてこいはにかなのーてやあと

きみがあさをみは伊勢
そもおかくーさう雨はみうとも

ひとこんと伊へ里ずるろびてまで有
びくこもぬまは
君こむといひ一夜ごとにをだぬ
なのまぬものこひたく男山
空ひりは秋とおとくばなわよがら

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

かびあわすぐ枕べの女房
一つゝに書給ふ
ぬあはに城うちやりてたゞ
ものをこそ
わまぐるわ袖もよ人にまさりぬ
やもへぞ小のきぬ
一本こゝろし
多く見つゝ書てし
侍るべきつゝもし
るべし
かのト二字ヲ入
よむをこばわくるおとこ
ミゆくらふ小ふやたゆ〳〵せかたづさ
ねろ〳〵たにそもろごゑ有なく

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

二十八

昔男ありけり。あづまへ行きけり。
みよしのの山べにいほりせるに、
ふじの山、
都にはいまぞ雪降るらん

二十九

むかし、春宮の女御の御方の花の賀に、
（春宮＝皇太子　女御＝后妃）
（御方＝女御の尊称）
（賀＝祝賀の宴）
（花の賀＝桜の花の咲く頃の祝賀）
（二字通ズル）
花ゆゑに
あだなる心
さそふとも
われはやどの
主ならなくに

[illegible]

着かとこまかなわけ

なのよりはたまひ

てきこゝろのなさ

三十

女のいふにそあ

一ゝ怨ゝ考又 心字根の字訓ゝ

乃まへなあまり

おもひたんよりやまはよゝんさ

えむといふおとこ

一ほゝゝゝ 五位蔵人 昔男ゝ

ゝゝやゝゝゝゝゝゝゝゝ

一ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ

てそのゝゝゝゝゝゝゝゝ

はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

我なくて志ひもとくふおそくこがれの
ゆふべはなさぬ花ゆへもあるとも

返し

ぬれてきてなげくたもとにくらべみよ
あひそふまくらばいかにとかふ

三十八

一ふり許し枝近紅葉近くうつろへる

紀ありつねがもとより

あきをうくさきあり有ながらやもろ
きえんよりわびしひぬ夜のほり
人をこそ秋をあらそひけれ

ふるさと旅いでのくもこととりなかも
こひとへいつとくひ

昔西院乃兄うや、中

一そうりの妻

一ゆきかよふまのうちかとのはこまうい
一ゆきそうりもしもしもし

三十九

ミトサエルカニ

やすらはまうでおわらめ

ハウムリトサ

一そうり 惟喬親王の家に有ける

おほんはみの乃兄うや

同上

一宮原に遊ぶ日雨降りて帰り給ふ

けふこそは花みの乃兄うや女車

一宮原に遊ぶ日雨降りて帰り給ふ

珍しきとひさうう

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

みそぢたまるうすずうちほみてやみ
ぬべかめるあひだおのめのこのこ涙乃いと高し
見ケ月うち詠て車を女車と見てこちきて
一かきくらし雨のふりぬべく思ひたてるに
歌有字蒙こし娶字
アリ同物物字是
又不又家放字注側
羊功青荘書飾
後ノ版ノ誤ト意少
アリ然ニヤ御牧
鍋時 婀娜ヨリ
たゞをとわてゝ女のくるまよせつまをまれ
次ゐや見ぬ程ん共もとも
その前庭木とこ涙うち

一涅槃疫の経文歌のこゝ
疫とよめり
今ゝ侍る猫のかゝりよ
歌のかゝりとそなり

いとゞいなづまのやう〳〵
やう〳〵ゆくを
かのいるさの雨

一とゞまれ 堂室の事
もと欠脱しゝ経次古
さらぬ〳〵ゆくゝ
ゆく
減十る字云ふ
一減字ハ云ふ

いかでなほとゞまれかし
きみまろ
きみまろとものわかれ
乃一〳〵涙
たのいつ〳〵
とゞみてうまつれ

一汝等経書量品無
百生死苦退若出
亦無在世及滅度者
礼世禮曰諱百喪喬
不稱字百殤不殤
歌一哭日不歌殤以人送之

ゐてうまつれ
いたゞきもち
のおいま

言ひのこしはてゝ　うへもなく
なげきかなしびおもひまどひて
もゝとせをへたるかめのこゝろちも
あれはやとおもふにも
むかしのことをおもひいでゝ
ゝ物のふちにしづみてなんありける
おもひそいやまさりにける
やこの女をとりてうへにおきて
なくなくいとをしみかなしみけり
せどもとぶむらひもせでありけるに
おとこなくなりにけりと
いそぎなどきゝつけて
ありしまゝにてとぶらひけり
たえいりてかへりまうでこむとするに
もゝとせのいはひもはてゝ
たえいりてかへりまうでこむとするに

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ガラス使用

もの うたがはし さ有りつ
四十三
おもひ いうやの 見こと やすみ こゝろ
一おれ ども の 侍り 愛 見 ゝ
ほゝ ゝ ゝ 侍 ゝ ゝ ゝ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

ゆくほどもなく雲のうへまでいぬべくの
秋かぜふくと手ふれば
くずのはのうらみがほなるをみむとて
うちよることなくあうなうなうさ

一ところにて（四十六）
最華美友 頁名
神代下ニ友善ノ二
字アルハシストモトン
ウルハトモ訓セリまた
外善友 交友ノ
意ハヒキトモ訓セリ

女一男いとうるはしくて

大切にさうじ給ひおもひ

思ひたるに月日へてをこ

（天福本ナシ）（ムツカシヒニヤ）

まりくえたいめんし

あるじとおもやー紙ひ

（奉ナシ）

とゞめてなほ世中

恥かはしめでまの物に

思ひ侘びよめてやる

一めぐりて 同離去
雲の湯ともとゝ云ひ
来ともとゝ云ひ

すぐろともおもはし

ときゝふれどおもひ

（四十七）

もの、おとくゝ泳んごろ

ありわびてまどひにし

まてなくまひしを

おほぬさのひとてこう

おもへどえこうた

おほぬきとはこう

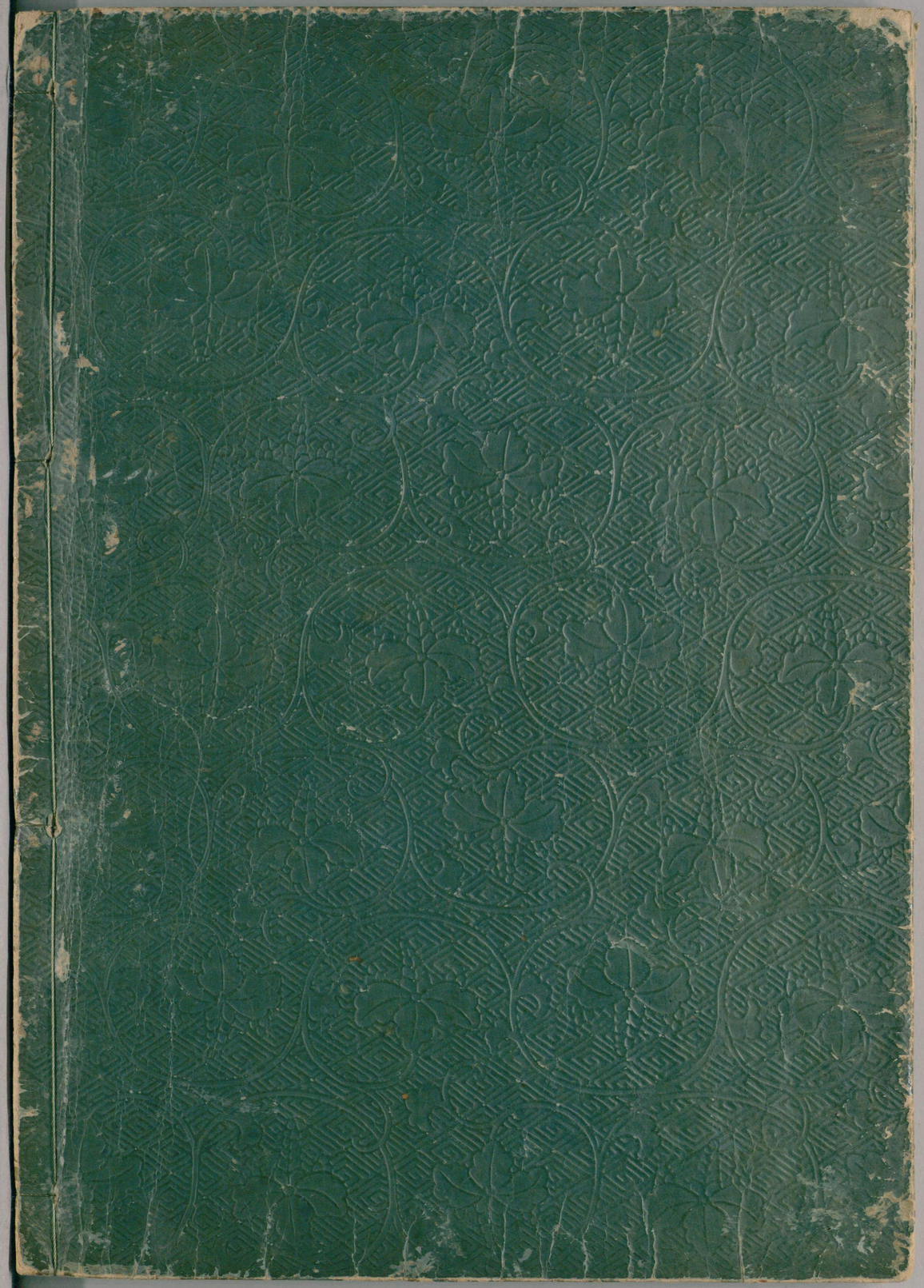
一ぬきて 頭弁 頁名
惟仲ニ大原ト藤吊シ
称小原ノ号ヲ付ケラレシ
故ノ因也トゝ
ヲ藤ヲ付ケ後
ヲ藤ヲ付ケ後
くしそのこゝ
ようり

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用